

資料3

地域包括ケアシステムモデル事業

予算額 62,943千円

現状

後期高齢者、高齢単身・夫婦世帯、認知症高齢者の増加

課題

「ご当地主義」で手法(モデル)が示されていない

目標

県主導により、モデル市町村で実施した手法を市町村に提示

28年度

29年度

30年度

31年度～

●モデル市町村を選定 (新座市、蕨市、羽生市、川島町)

自立促進

多職種が連携する地域ケア会議で自立に資するケアプラン作成



介護予防

元気高齢者が運営する歩いて通える場所での体操教室



生活支援

元気高齢者を生活支援の担い手として養成

掃除や調理などの日常生活支援サービス



効果検証し、取組手法を確立

手法(モデル)を提示

全市町村で地域包括ケアシステム構築

埼玉県資料

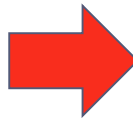
自立促進モデル (H28,H29)

地域ケア会議

自立を支援するケアプランを担当ケアマネ、各サービス事業所(デイケア、ヘルパーなど)、専門職、保険者(町)で話し合う。

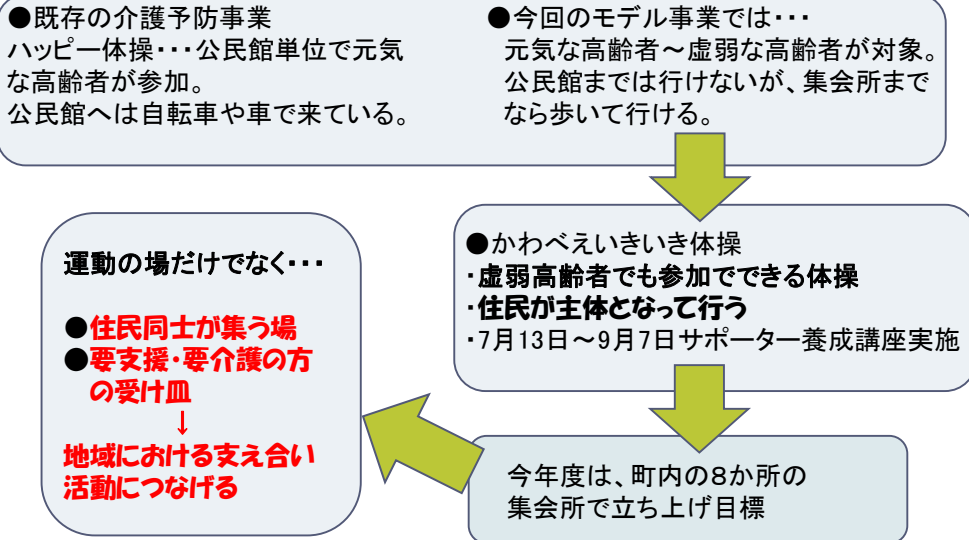
専門職

- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・薬剤師
- ・栄養士



地域課題の抽出
要介護認定率の低減
要介護状態の改善・悪化防止

介護予防モデル (H28)



▶ 3

生活支援モデル (H29)

- 介護保険における要支援者の通所介護(デイサービス)・訪問介護(ヘルパー)の受け皿となる生活支援サービスをつくり出す。
- 元気な高齢者が、地域における生活支援の担い手として活動することで、自らの介護予防につなげる。



趣味の料理を活かしたい



ゴミ出しなら手伝える



助け合い・暮らしやすい地域づくり



認知症サポーターとしてちょっとした見守りならできるかもしれない

▶ 4